

kins University Press, Baltimore, 1971.

【編著書】 McC. Brooks, Ch. and Levey, H.A.: Humorally-

Transported Integraters of Body Function and the Development of Endocrinology. 183—238 in McC. Brooks, Ch. and Cranefield, P.F. (eds.): The Historical Development of Physiological Thought. Hafner, New York, 1959.

六 投稿原稿は「コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。」

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責了とみなす。

八 刷り上り一〇印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で二四枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

〒一一三 東京都文京区本郷二丁目一一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

編集後記

先日の横浜での総会は盛会だった。前号の抄録号はたいへん見やすくなったと、いく人かの方からおほめの言葉をいただいた。いろいろ御意見・御指摘を頂戴した結果である。編集部のみになる校正もれがいくつあったことはお詫び申し上げる。▼今回も編集部に対してありがたい御意見を賜った。演題募集要項に用いられた「ふきだし」という言葉は辞典にも載っていない意味不明の語だとの指摘もその一つ。これは「〜や〜」といったラップ状の記号をつけて行間や(もしくは中央突起に線を延長して)欄外に脱字・脱文を補入する方法を表現したつもりだったが、募集要項に使うには不適切だった。三輪編集長の調べによると、「ふきだし」とは漫画でせりふを書くため、口から吹き出した形で書かれた曲線をいうため作られた用語で、近年新版の二・三の国語事典に収録されているという。▼また、掲載論文に初歩的な認識の誤りがあるものがみられ、そのようなことは当然審査段階でチェックされるべきだ、学会としての見識が疑われる、との指摘もあった。一人の審査員の眼と論文執筆者の最終責任ということでは済まされない問題であり、今後編集部でもいっそうの注意を払う所存である。▼ただ一方では、投稿規定や審査が厳格すぎて、学会発表はできても、とても論文投稿する気にはなれないという声も耳にする。一時低迷して先が案じられた論文投稿数も、このところ新しい研究者の参入もあって順調に増えており、この喜ばしい傾向に決して水をかけるようなことはしたくない。いや、そのようなことは絶対にあってはならないと思う。今号もお叱りを受けたような不明がなければよいがと念じつつ編集後記を記した次第。(小曾戸洋)